

2023年度(令和5年度)学校評価自己評価表

城南中学校区	校番 3	福山市立城南中学校
最終更新日		2024年(令和6年)2月1日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 義務教育修了時のめざす子どもの姿が明確で、時代の流れに対応しているのがよく分かる。 コロナ禍で生活リズムが乱れた児童、生徒もいる中で、改善に向けた取組みが進んでいるように見える。 全体的に教職員の勤務時間が減少傾向にあるので取組みを更に進めてほしい。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの児童生徒が「自ら考え、決める、選ぶ」を実践している。 学び合いを通して、自分の考えを深めることができる、児童生徒が増えてきている。 小学校での不登校児童は減少傾向だが、中学校では変化がない。 	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>課題発見する力(課題を見つける) 対話する力(コミュニケーション) 認める態度(人としての思いやり)</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる児童生徒 様々な課題を自ら求め、お互いの意見を尊重しながら対話による課題解決を図る主体性を持つ児童生徒 <p>中学校区として統一した取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学校・子どもはこうあるべきだ」といった価値観や固定観念を問い直す ・多様な価値観で子ども一人一人の学ぶ姿をみる。 ○自分が“考えて、決める、選ぶ” ・自分で方法を決めて課題解決に取り組んだり、議論したりする。
---	--	---

III 自校

<p>ミッション</p> <p>生徒一人一人の学びを最大限に引き出すために、</p> <ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の状況を丁寧にみる 臨機応変に対応する 	<p>学校教育目標</p> <p>自立～深く学ぶ、自他を敬う、未来を拓く～</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題発見する力(課題をみつける) 対話する力(コミュニケーション) 認める態度(人としての思いやり) <p>めざす子ども像</p> <p>課 明確な目標をたて、その目標にせまる学び方を自ら見だし解決に向けて方法をさぐる。</p> <p>対 課題や問題解決のために自己の経験などから意見を伝えたり、他者と対話することで考えを評価したり、深めたりして互いの考えを生かし合う。</p> <p>認 自己の考えや思いについて自信を持ったり認めたり、他者の思いや立場を尊重し、互いに高め合うことができる。</p>
<p>現 状</p> <p><生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> 86%の生徒が「自分で考え、決めて、選ぶことを大切にしている」と回答しており、定着している。 運動やスポーツが嫌い、やや嫌いと感じた生徒の割合は、25.6%となっており、体力の低下の原因の1つとなっている。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の中で『なぜだろう』『やってみたい』と思っている生徒の割合は78.2% 自分の意見を他者に伝えることはできるようになってきたが、新しい価値観を生み出すことのできる生徒の育成まではできていない。86.1% 	<p>研究</p> <p>テーマ 教科の本質</p> <p>内容等 「そもそも」「なぜ」「どうして」を大切にしたい学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ファシリテーターとして生徒一人一人の学びの姿から学びを進める。 教師が教えること、生徒が決めて考えることのバランスをはかる。 	<p>めざす授業の姿</p> <p>「子ども主体の学びづくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> 学び方を自ら見だし、解決に向けて方法をじっくり考える。 他者と対話することで考えを評価したり、深めたりして互いの考えを生かす。 課題について深め、「わかったこと」「疑問に思ったこと」などを説明する。 自ら「学びたいこと」「学び方」などを決定する。

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立城南中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
2	1 課題を発見し、自ら考え・学ぶ力を育成する。	★	見直し 新規	「そもそも」「なぜ」「どうして」を大切に、主体的に学ぶ生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 教材研究を通して、本質的な問いを意識した授業をつくる。 子どもが自分自身の言葉で課題について説明できるような指導を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「“そもそも” “なぜ” “どうして” を大切にしている」と回答する生徒の割合を増加させる。(現状80.9%) 課題について、自分の言葉で説明できている。(肯定的評価80%以上) ※2023年度数値なし 	<ul style="list-style-type: none"> □月に1回以上教科会をもち、教師の指導方法の課題や本質的な「問い」について協議を行った。 「“そもそも” “なぜ” “どうして” を大切にしている」と回答した生徒の割合80.4%。 □民間企業と連携した探究プログラムやSDGsの取組を通して課題探究学習を行った。 課題について、自分の言葉で説明できていると回答した生徒の割合77.4%。 	4	3	学力調査結果を基に、生徒のつまずきと教師の指導方法の課題を把握する。把握した結果をもとに、授業改善を行う。	<ul style="list-style-type: none"> □学習指導要領に立ち返り、教材研究を行った。生徒自身が考えたいと思えるような「問い」について、教科会で協議を行った。 ◎「“そもそも” “なぜ” “どうして” を大切にしている」と回答する生徒の割合は75.3%。(3年83.6%、2年68.8%1年73.7%) □生徒自身が疑問に思ったことを探究できる課題を設定し、成果を自分の言葉で発表した。 ◎課題について、自分の言葉で説明できていると回答した生徒の割合は76.2%。 	3	3	3	肯定的評価の高い学年が行っている取組を他の学年も参考にし、実践していく。教材研究を進め、教職員が主体的に授業改善に取組める環境をつくる。 課題探究学習(民間企業と連携した探究プログラム)を進めた取組を各教科の授業に還元できるように、研修体制を整える。
	2 生徒一人一人の学びの姿を大切にされた教育活動を実践する。	★	見直し 継続	教職員と生徒の対話、生徒と生徒の対話、それぞれを大切にする。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が方法を決めて課題解決に取り組んだり、議論したりするような場面を設定する。 週1回の「学びプロジェクト委員会」で個々の状況を協議し必要な支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が「考える、決める、選ぶ」ことを大切にしていると回答する生徒の割合を増加させる。(現状86%) 新規長欠者の出現率を減少させる。(現状2.2%) 	<ul style="list-style-type: none"> □教科の授業や総合的な学習の時間などで、目的をもって考え、意見を交流する場を設定した。 自分が「考える、決める、選ぶ」ことを大切にしていると回答した生徒の割合は86.6%。 □10月までに学びプロジェクトを15回開催し生徒及び保護者の願いを把握し協議した。内容を各主任、担任と連携し取組をすすめた。 8月末現在の新規の長欠者の出現率は0.3%。 	4	3	自分の意見を全体に発信できる授業を計画的に位置付けていく。生徒会執行部を中心に取組を考え、自発的な活動を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> □教材研究を進め、生徒自身が方法を決めて課題を解決できるような課題を教職員間で協議し、実践した。 ◎自分が「考える、決める、選ぶ」ことを大切にしていると回答する生徒の割合は87%。 □1月までに学びプロジェクトを25回開催し生徒及び保護者の願いを把握した。連携した生徒への具体的な支援の方向性を協議し、生徒の居場所づくりにつなげた。 ◎2月末現在の新規の長欠者の出現率は1.9% 	4	4	4	引き続き、生徒自身の意見が反映できる日々の授業、行事等を通して自分で考える、決める、選ぶ習慣が身につく取組を行う。 教室・校内フリースクール・校外のフリースクールなど、様々な学びの場を生徒自身が選べるよう支援していく。

2	3		見直し	自ら体力づくりに取り組み健康促進につとめる態度を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業や部活動の練習方法を工夫する。 ・「健活の日」を学期に1回設定し、健康促進を発信し啓発する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツが「嫌い・やや嫌い」と回答した生徒の割合を減少させる。(現状25.6%) ・むし歯指数(D指数)を下げ、治療率を上げる。(現状D指数0.13)(現状治療率69.4%) 	<input type="checkbox"/> 新体力テストの結果を過去の自分の結果と比較し伸びた部分を確認した。 <input type="checkbox"/> むし歯の治療率を養護教諭と担任が連携して、生徒・保護者に周知した。 <ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツが「嫌い・やや嫌い」と回答した生徒の割合は22.4%。 ・むし歯指数(D指数)は0.15。治療率は8月末現在、24.2% 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・健活の日を設定し健康促進についての情報を発信していく。また、保健体育の授業や部活動の練習方法を工夫する。 ・むし歯を治療する意義を説明する取組を行う。また、治療率を定期的に把握し、担任が保護者と連携する。 	<input type="checkbox"/> 体力向上の取組の一環として、校内駅伝大会を企画し実施した。生徒が自ら考えて目標を設定して、駅伝大会に向けて持久力走を計画的に行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 運動やスポーツが「嫌い・やや嫌い」と回答した生徒の割合は23.9%。 <input type="checkbox"/> むし歯を治療する意義を保健便りで発信した。保体委員を中心に歯の健康を守ろうと呼びかけた。 <input checked="" type="checkbox"/> むし歯指数(D指数)は0.15。治療率は1月末現在、62.7%。	3	3	3	持久力向上の取組などを通して、自分で目標を設定し、達成するための計画を立てるという習慣にする 引き続き、歯の健康を考えることで、たくましい身体の育成につながることを踏まえ、生徒本人及び保護者の方に重要性を発信していく。
2	4		新規	主体的に新たなことにチャレンジしている教職員を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの職員の適性や能力にあった役割分担を行う。 ・教職員同士が「子どもの姿」を共有できる環境をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の仕事が認められている」と感じる職員の割合を80%以上にす。 ※2022年度数値なし 	<input type="checkbox"/> 管理職や教職員が、面談以外にも日々の業務の間に対話を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・「自分の仕事が認められている」と感じる教職員の割合は、95.5% 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の適性や能力にあった役割分担に加え、仕事に困ったりしたときにも、管理職や同僚がともに考える体制を継続する。 	<input type="checkbox"/> 各教職員がチャレンジできるよう適性や能力に合わせた役割分担を行った。 <input checked="" type="checkbox"/> 「自分の仕事が認められている」と感じる教職員の割合は、93.2%	4	4	4	引き続き、管理職や同僚が情報を共有できる環境を整え、教職員が新たなことにチャレンジできる職場環境をつくる。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。